

# MLAP

(ムラップ)

MUSIC with LIFE for ALL Project

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

2018年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための参加型の音楽活動を軸とした実践研究」



## < 生涯学習としての意義 >

- ◆ MLAP は参加型音楽会を通して、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら自立や自律に繋がり、豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらいとした生涯学習プログラムです。
- ◆ 障がいのある人が社会参加する機会が増えること、地域住民とともに活動することで障がいへの理解が進み、共生社会の実現にも寄与すると考えます。

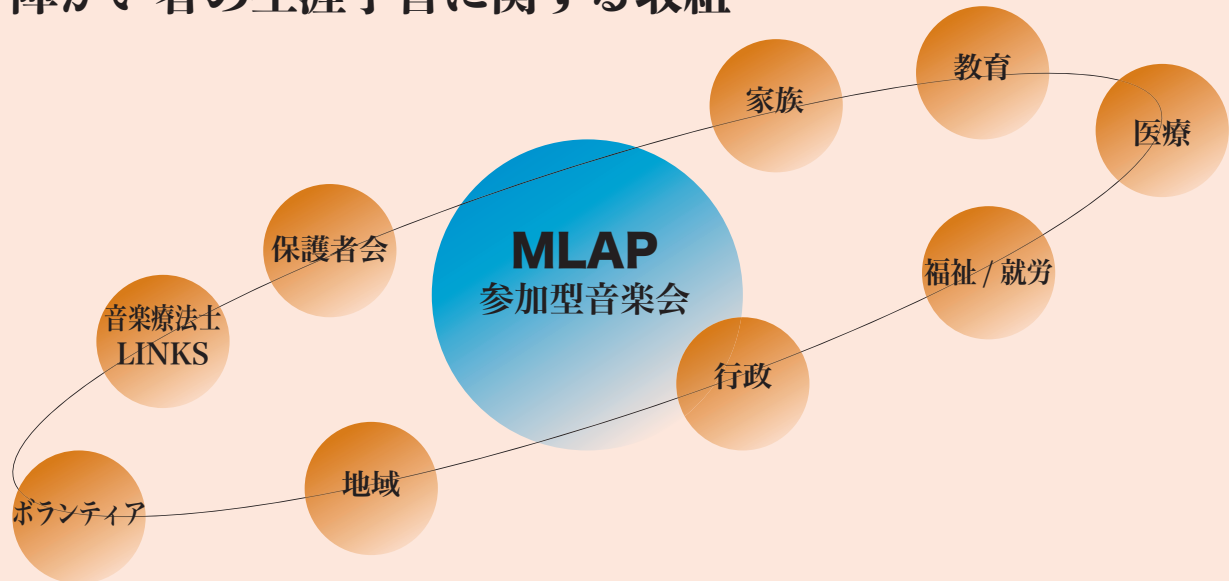
## < 3年間の MLAP の目標 >

- 1年目 活動をしながら、参加型の音楽活動を知ってもらう
- 2年目 連携を深める 活動を充実させる、ボランティアの拡充成果の分析を行う
- 3年目 身近な地域で成果を見込めるプログラムの完成

### 目 次

MLAP の生涯学習としての意味 .....	2
これから3年間の MLAP の目標 .....	3
福岡市手をつなぐ育成会保護者会における障がい者の生涯学習に関する取組	
MLAP で生かされている音楽の特徴	
療法的音楽活動を取り入れた MLAP の特徴	
MLAP の構造 .....	4
本年度の MLAP 実践の振り返り .....	5
1) 障がい者個人対象音楽療法	
2) 障がい者18歳以上集団対象音楽療法	
3) 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会 .....	6
4) 障がい者の家族を対象とした集団音楽体験 .....	8
5) 音楽活動のための専門家を中心とした勉強会 .....	9
6) 音楽活動のための大学生を中心としたボランティア養成講座 .....	10
7) 全ての地域住民を対象としたワークショップ	
8) 全ての地域住民を対象としたシンポジウム	
9) 視察 .....	11
連携協議会 .....	12
アンケート結果 .....	13
MLAP の今後の展開 .....	15
連携協議会 構成員 .....	表4

# 福岡市手をつなぐ育成会保護者会における 障がい者の生涯学習に関する取組



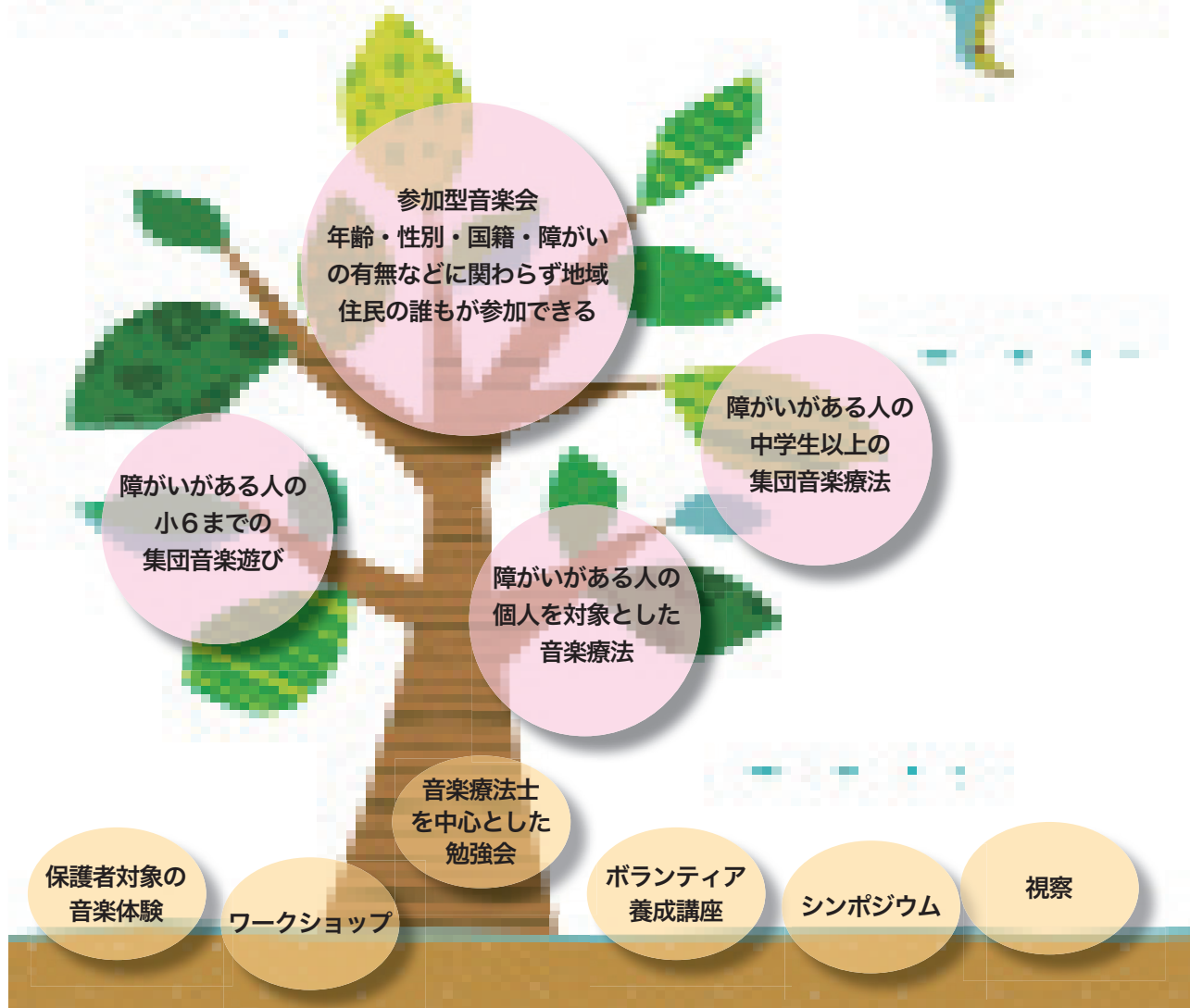
## < MLAP で生かされている音楽の特徴 >

◇ MLAP が参加型音楽活動を手段とする理由は音楽の柔軟性、すなわち個人でも集団でも、参加者限定型でも公開型でも、身体と五感を使ったあらゆる参加方法があるからです。

◇ MLAP の特性を生かし、障がいニーズに合わせて楽しみながらコミュニケーション力を学習することができます。



効果的な障がいのある人の  
生涯学習プログラムの開発のために、  
MLAP では、10の音楽活動を組織的に実施しています。



#### MLAP で生かされている音楽の特徴

- 個人でも集団でも実施可能
- 能動的活動でも受動的活動でも実施が可能
- 参加者限定型でも公開型でも実施が可能
- 参加者のニーズに合わせた活動内容や選曲が可能

#### 療法的音楽活動を取り入れた MLAP の特徴

- 参加者の自由意志に基づいている
- 楽譜、字、言葉の有無は関係ない
- 管理的、指示的ではほとんどない
- 達成の状況や他人との比較で評価しない

## 1. 障がい者個人対象音楽療法

概要：「子どもに音楽療法を受けさせたい」障がい児を子どもに持つ保護者のサークル〈ほっぷ！〉の依頼により、1999年より個人を対象とした音楽療法を実施している。

実施時：2018-8～2019-2 計 8回実施

場所：福岡市障がい者フレンドホーム 和室

参加者：音楽療法希望者約5名（内4名 ・学卒者）

コーディネーター：米倉裕子



## 2. 障がい者18歳以上集団対象音楽療法

概要：手をつなぐ育成会保護者会の依頼により、2002年からグループを対象として実施している中学生以上を対象とした集団音楽療法。

実施時：2018-8～2019-2 計 5回実施

場所：福岡市障がい者フレンドホーム 機能訓練室

参加者：音楽療法希望者約4名（内4名 ・学卒者）

コーディネーター：米倉裕子



### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会－ 1

概 要：月に1度実施している「こひつじの園ランチフェ」の利用者を対象に単発のイベントとして実施

日 時：2018-10-20（土）

時 間：13:30～14:00

場 所：平尾バプテスト教会

参加者：地域住民、重度心身障がい者施設利用者 など約80名

スタッフ：音楽担当メンバー 1名・ボランティア 2名（内1名学卒の障がいのある者）

コーディネーター：米倉裕子

連 携：民間の団体との繋がりができて、今後の連携のきっかけになった



### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会－ 2

概 要：毎年実施している「第4回健康フェア」の中の1つのプログラムとして「音楽ひろば」を実施

日 時：2018-11-11（土）

時 間：10:30～12:30

場 所：医療法人財団つばさ 行橋厚生病院

参加者：第1部 地域のお元気な高齢者 約30名

第2部 入院患者 約10名

スタッフ：音楽担当メンバー 3名

コーディネーター：米倉裕子

連 携：連携委員が関わっている医療施設との繋がりができて、今後の連携のきっかけになった



### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会－3

概要：毎年実施している「福祉の文化祭」（今回は39回目）の中の1つのプログラムとして実施

日時：2018-11-23（日）

時間：12:30～13:00

場所：社会福祉法人 恵光園

参加者：地域住民、施設利用者など約80名

スタッフ：音楽担当メンバー 4名

コーディネーター：米倉裕子

連携：福祉施設との繋がりができて、今後の連携のきっかけになった



### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会－4

概要：毎年上記施設が実施している「ふれあい広場クリスマス会」の中の1つのプログラムとして実施

日時：2018-12-8（土）

時間：14:20～14:40

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム内 寿楽園 2階 大広間

参加者：地域住民、施設利用者など約80名

スタッフ：音楽担当メンバー 2名

コーディネーター：米倉裕子

連携：連携委員が関わっている福祉施設との繋がりができて、今後の連携のきっかけになった。



### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会－5

概要：博多音楽療法コミュニティ LINKS の 3 回目の参加型音楽会「りんりんりんくす III」として実施

日時：2018-12-22 (土)

時間：10:30～11:45

場所：福岡市市民福祉プラザふくふくホール

参加者：地域住民など約80名

スタッフ：音楽担当メンバー 4名

ボランティア：一般2名（内1名 学卒の障がいのある者）福岡大学・西日本短期大学学生25名 西日本短期大学和太鼓サークルメンバー 4名

コーディネーター：米倉裕子

連携：福岡市内の特別支援学校に案内をすることで繋がりができて、今後の連携のきっかけになった



### 4. 障がい者の家族を対象とした集団音楽体験

概要：福岡市手をつなぐ育成会保護者会の第13回ひまわり療育キャンプに参加している児童の保護者を対象にして「保護者のための音楽遊び」を実施

日時：2018-11-18 (日)

時間：9:00～10:00

場所：海の中道青少年海の家

参加者：キャンプに参加している児童の保護者  
約12名

コーディネーター：米倉裕子

連携：保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった





## 5. 音楽活動のための専門家を中心とした勉強会

**概要：**音楽療法を教育機関で学んだ経験があり、音楽療法を実践している専門家を中心に実施している勉強会で、名称は博多音楽療法コミュニティ LINKS で 2007年から実施。参加型音楽会の実践における中心的存在。

**日時：**2018-8~2019-2  
計8回実施

**場所：**福岡市市民福祉プラザ  
ふくふくプラザ内

**参加者：**LINKS に所属している音楽療法士9名  
**コーディネーター：**米倉裕子

**連携：**地域で現場を持つ音楽療法士との連携のきっかけになった



## 6. 音楽活動のための大学生を中心としたボランティア養成講座

**概要：**手をつなぐ育成会保護者会の依頼により2002年から実施している小学生までのグループを対象とした音楽遊び BEATON ビートンに参加しているボランティアを対象に実施

**日時：**2018-8~2019-2  
計5回実施

**場所：**福岡市立城南障がい者  
フレンドホーム和室

**参加者：**音楽遊び BEATON ビートンに参加しているボランティア（非固定）

**コーディネーター：**米倉裕子

**連携：**地域の大学生個人や大学のサークルのメンバーとの連携のきっかけになっている



## 7. 全ての地域住民を対象としたワークショップ

西日本短期大学地域講座 リズムでコミュニケーション～ドラムサークル」

**概要**：ドラムサークル講師指導の下、地域住民対象に「ドラムや和太鼓を打ち叩く気持ち良さを味わいませんか？音を身体で感じてたのしもう！」をキャッチフレーズに打楽器を使用した参加型の音楽ワークショップを実施した。

**日時**：2019-1-26

**時間**：11:00～12:00

**場所**：西日本短期大学 福浜キャンパス 体育館

**参加者**：地域住民 など 約50名

**講師**：三原典子氏 DCFA 理事・ドラムサークルファシリテーター

**スタッフ**：音楽担当メンバー1名

**コーディネーター**：米倉裕子

**ボランティア**：西日本短期大学和太鼓サークルメンバー・西日本短期大学学生 10名

**連携**：＜後援＞福岡市教育委員会・福岡市 ＜メディア＞西日本新聞 ＜地域教育機関＞西日本短期大学  
案内をすることでこれからの連携のきっかけになった  
・地域公民館・特別支援学校・障がい児通園施設



## 8. 全ての地域住民を対象としたシンポジウム

MLAP学習会—シンポジウム—

「学卒後の障がいのある人の暮らしと地域とのかかわり～音楽活動のある暮らし～」

**概要**：障がいのある人の学卒後の暮らしや地域とのかかわりの現状を知り、課題を浮かび上げ、課題に対してMLAPの音楽活動が有効であるか、さらに有効にするための取り組み方を協議した。

**日時**：2018-12-5（水）

**時間**：18:30～20:30

**場所**：福岡市市民福祉プラザ 201室

**参加者**：学卒後の障がいのある人の暮らしを豊かにしたいと思う人約20名

**シンポジスト**：水野英尚氏 連携協議会委員・地域生活ケアセンター 小さなたね所長 白川弘子氏  
福岡市特別支援学校博多高等学園教員 古長美知子氏 共同生活援助事業所管理者

**司会**：下山いわ子

**コーディネーター**：米倉裕子



## 9-1. 第18回日本音楽療法学会学術大会

概要：2千人を超える会員の会で年に1度学術大会を実施している。第18回目のテーマは、「個が奏でるハーモニー—対象者を見つめる音楽療法士の姿勢—」

日時：2018-9-14～2018-9-15

場所：サンポートホール高松（香川県）

視察者：勉強会に所属している音楽療法士 1名

コーディネーター：米倉裕子（計2名）

## 9-2. 大友良英と音遊びの会

概要：知的な障がいをもつメンバーを含むアーティスト集団「音遊びの会」のステージパフォーマンスで、この回は、「あまちゃん」や「いだてん」の音楽を担当している大友良英をメンバーとして含んだパフォーマンスを開催した。

日時：2018-10-21

場所：神戸アートビレッジセンター（兵庫県）

視察者：勉強会に所属している音楽療法士 1名

コーディネーター：米倉裕子（計2名）

## 9-3. その場ですぐみんなで生き生き合奏

概要：現場音楽研究会&合奏システム研究所の折山もと子氏を講師として招いて、キーボード、打楽器、トーンチャイムを使用した即興演奏の指導法についてのワークショップ

日時：2018-11-4

場所：光風会病院 森のシアター（佐賀県）

講師：折山もと子氏

視察者：勉強会に所属している音楽療法士 1名

コーディネーター：米倉裕子（計2名）

## 9-4. 第4回ドラムサークル for ウェルネス

「高齢者の健康におけるドラミングの影響について」

概要：アメリカで幅広い対象に対してドラムサークルを実施しているフランク・トンプソンから、あらゆる現場でそれぞれの対象者のニーズに沿ったドラミングの提供の仕方とかかわり方の極意についての2日間のワークショップで、清水先生からは日本の現場での実践の話があった。

日時：2018-11-24～2018-11-25

場所：(株)ヤマハミュージックジャパン 地下1階（東京都）

講師：フランク・トンプソン、清水和美

視察者：勉強会所属している音楽療法士 1名

コーディネーター：米倉裕子（計2名）

## 9-5. 日本臨床音楽療法学会第 13 回大会

概 要：4名の音楽療法士による事例発表と「即興アプローチの具体的な練習方法」についてのワークショップという内容であった。

日 時：2018-2-17

場 所：神戸大学鶴甲キャンパス C111 教室（兵庫県）

講 師：岡崎香奈氏

視 察 者：MLAP 連携協議会委員 1名

コーディネーター：米倉裕子（計2名）

### < 連携協議会 >

概 要：14名の連携協議会員による会で、本実践研究についてそれぞれの専門分野の視点から、障がいのある人たちの学校卒業後の豊かな暮らしや学びを続ける機会の提供の方法、障がいのあるなしに関係なくお互いを尊重し合える社会を創るための方法を協議する。

#### 第1回連携協議会

日 時：2018-7-10

場 所：福岡市市民福祉プラザ 会議室

司 会：下山いわ子氏

内 容：実践研究についての説明・18年間の報告活動・今年度の活動計画について

#### 第2回連携協議会

日 時：2018-10-24

場 所：福岡市市民福祉プラザ 会議室

司 会：下山いわ子氏

内 容：実践研究の経過報告・評価方法についての意見交換

#### 第3回連携協議会

日 時：2019-2-20

場 所：福岡市市民福祉プラザ 会議室

司 会：下山いわ子氏

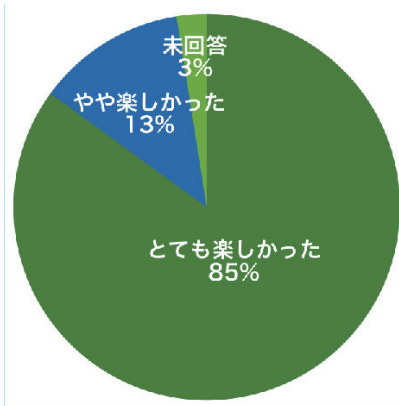
内 容：実践研究の報告・報告会に向けての協議・来年に向けての意見交換



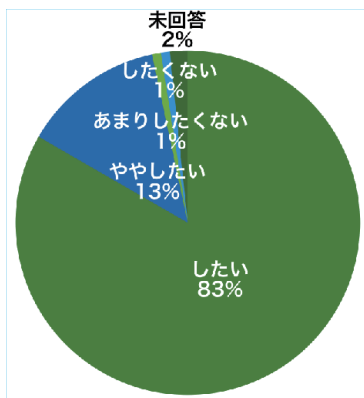
## アンケート 結果

### ◇地域住民対象参加型音楽会 総合

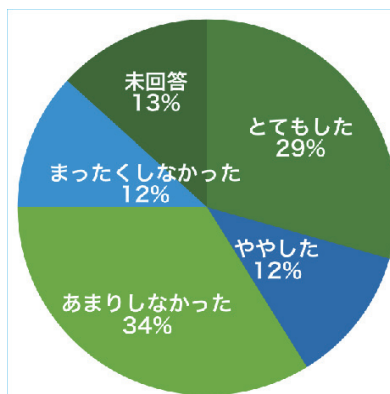
参加型音楽会は楽しかったですか？



また参加したいですか？

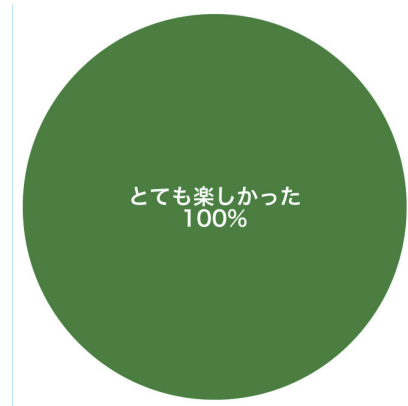


参加者を意識しましたか？

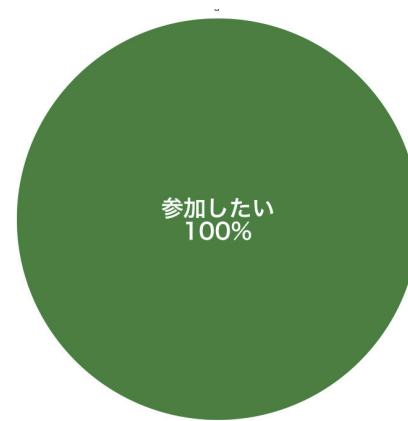


### ◇保護者向け音楽体験

参加型音楽会は楽しかったですか？



参加者を意識しましたか？

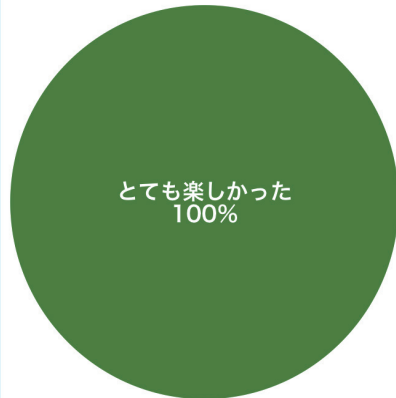


アンケート結果より、参加した方からは概ねプラス評価をいただき、本年度の「MLAP参加型音楽会を知ってもらう」という目標は達成できたといえる。また、これらのデータは、今後の障がい者の生涯学習プログラムとしてのMLAPを構築していく実践研究としての1歩として貴重なファウンデーションになったと実感している。

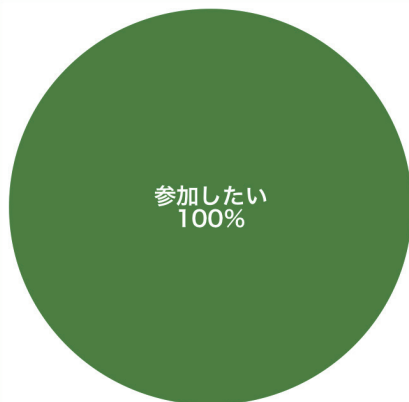
## アンケート結果

### ◇ワークショップ

今回の参加型音楽会は楽しかったですか？

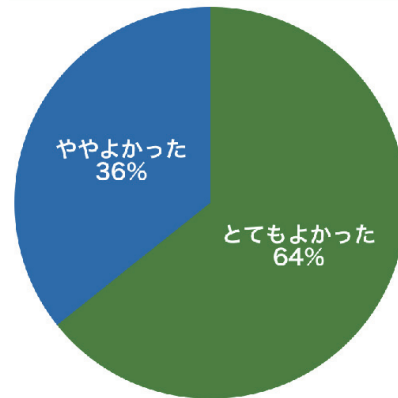


また参加したいですか？

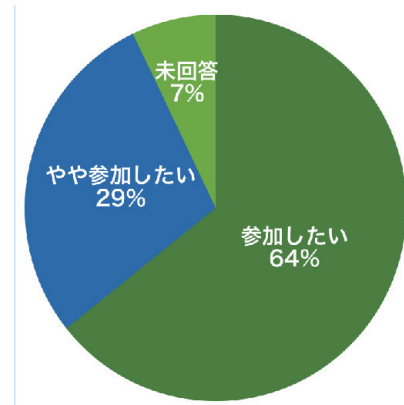


### ◇シンポジウム

今回のシンポジウムはいかがでしたか？



参加型音楽会に参加したいですか？

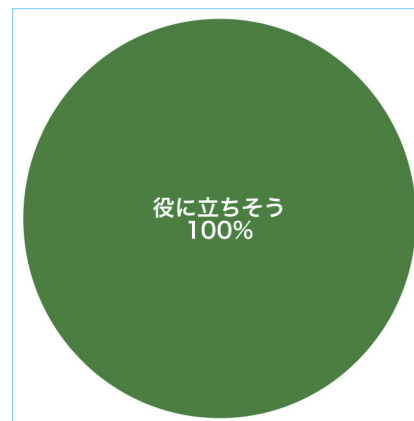


### ◇ボランティア養成講座

今回のボランティア講座は  
次回ボランティアをする際に



今回のボランティア講座はボランティア  
以外の日常生活において



## <今後の MLAP の展開>

♪音楽療法の視点から、障がい児・者の発達段階に応じた個人対象の音楽療法、集団音楽療法、集団音楽遊びなどを組み合わせ、専門家が障がい特性を生かす勉強会を重ね、MLAP活動を支援するボランティアの養成を図りながら、年齢・性別・国籍・障がいの有無などに関わらず地域住民の誰もが参加できるようなMLAPの生涯学習としての体制づくりを構築します。

- 可能性 1** ■ コミュニティ対象の参加型音楽会の実施  
- 実施場所の開拓  
- オープン型と同時にセミクローズ型も同時に実施（継続して実施、追跡調査）
- 可能性 2** ■ コミュニティ対象の参加型音楽会の特定の参加者の変化についての調査実施
- 可能性 3** ■ 3つの要素（歌唱・楽器・身体活動）をどのように組み合わせる構成していくと有効に機能するかの検証する  
■ 活動の組み合わせ、順番、ジャンルの違い←2年間かけて調査していく
- 可能性 4** ■ 参加型音楽会のインストラクターの発掘・トレーニング
- 可能性 5** ■ 生涯学習プログラムとしてのMLAPのために、さまざまなひとたちとの連携を構築すること





MLAP キャラクター  
むらっぷう

### < 連携協議会 >

- |        |   |
|--------|---|
| 米倉裕子   | 音楽療法士   |
| 山崎 順子  | 知的障がいのある本人                                    |
| 牟田 智佳  | 福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長                           |
| 氷室 剛   | 福興脚保健福祉局障がい者部 障がい者在宅支援課施策企画係長                 |
| 野口 信介  | 福岡市発達教育支援センター所長                               |
| 日高 徹   | 福岡市立南福岡特別支援学校校長                               |
| 一山 幸子  | 西日本短期大学社会福祉学科教授                               |
| 近藤 綾子  | 音楽療法士 精神保健福祉士                                 |
| 小山 浩俊  | 福岡市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長                         |
| 清家 信二郎 | 福岡市立城南障がい者フレンドホーム生活指導員                        |
| 水野 英尚  | 地域生活ケアセンター小さなたね所長                             |
| 天野 秀樹  | DCFA 協会員 福岡ドラムサークル主宰者                         |
| 日隈 富貴雄 | 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会<br>指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長 |
| 荒井 晃紀  | 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会<br>指定共同生活援助事業 早良ひまわりハウス施設長  |
| 下山 いわ子 | 福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長                             |



社会福祉法人  
福岡市手をつなぐ育成会



## 報告書（添付資料）：

文部科学省 「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」 2018年度  
委託事業

MLAP(ムラップ)

Music with Life for All Project

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

—生涯学習としての参加型音楽活動の可能性—

福岡市手をつなぐ育成会

MLAP コーディネータ/米倉 裕子

### <本年度のMLAP 実践の振り返り>

1年目である今年は、障がい者の生涯学習プログラムとしての参加型音楽会 MLAP の構築に向けて、1. 障がい者個人対象音楽療法、2. 障がい者18歳以上集団対象音楽療法、3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会、4. 障がい者の家族を対象とした集団音楽体験、5. 音楽活動のための専門家を中心とした勉強会、6. 音楽活動のための大学生を中心としたボランティア養成講座、7. 全ての地域住民を対象としたワークショップ、8. 全ての地域住民を対象としたシンポジウム、9. 視察、以上の9つの事業を実施した。

### <本年度のMLAP の成果>

1年目である今年の目標は、「活動をしながら、参加型の音楽活動を知ってもらおう」であった。その目標を達成するために、障がい者個人対象音楽療法は8回の実施、障がい者18歳以上集団対象音楽療法は5回の実施、全ての地域住民を対象とした参加型音楽会は5回の実施、障がい者の家族を対象とした集団音楽体験は1回の実施、音楽活動のための専門家を中心とした勉強会は7回の実施、音楽活動のための大学生を中心としたボランティア養成講座は5回の実施、全ての地域住民を対象としたワークショップは1回の実施、全ての地域住民を対象としたシンポジウムは1回の実施、そして5ヶ所の視察を実施したことから、この目標は達成したと考えている。以下、それぞれの活動の詳細について報告する。

## 1. 障がい者個人対象音楽療法：

活動の概要： 子どもに音楽療法を受けさせたいという希望を持った障がい児を子どもを持つ保護者のサークル〈ほっぷ！〉の依頼により、1999年より実施している個人を対象とした音楽療法で、今年度は音楽療法希望者5名（内4名は学卒者）に対し、クローズドで月に1度実施した。将来的に、多くの人と関わっていくことになる障がいのある本人の日常生活を見据えて、まずは、音楽を介した音楽療法士との人間関係の構築を経験することが長期目標として置かれているMLAPのファーストステップとなるプログラムである。

場所： 福岡市立城南障がい者フレンドホーム 和室

実施回数： 今年度は8回実施し、毎回の実施記録とそれぞれの対象者との個別支援計画との照らし合わせを保護者を対象にして年度末に実施した。

スタッフ： 音楽療法士兼コーディネーター 1名

## 2. 障がい者18歳以上集団対象音楽療法：

活動の概要： 手をつなぐ育成会保護者会の依頼により、2002年から中学生以上の障がいのある人を対象とした集団の音楽療法プログラムで、今年度は音楽療法希望者4名（内4名は学卒者）に対し、クローズドで月に1度実施した。将来的に、多くの人と関わっていくことになる障がいのある本人の日常生活を見据えて、個人の目標だけではなく、小グループ単位での支援計画を作成し、集団活動によって培われる社会性の向上を目的としたMLAPのセカンドステップとなるプログラムである。

実施回数： 今年度は5回実施し、毎回の実施記録とそれぞれの対象者との個別支援計画及びグループ支援計画との照らし合わせを保護者を対象にして年度末に実施した。

スタッフ： 音楽療法士兼コーディネーター 1名

### 3. 全ての地域住民を対象とした参加型音楽会：

音楽を介して障がいのあるなしにかかわらずみんなが自分自身とお互いを尊重しあえる共生社会を構築するための生涯学習プログラムの中心となるプログラムである。

#### 1) 平尾バプテスト教会「こひつじの園ランチフェ」

- 概要： 月に1度平尾バプテスト教会で実施している「こひつじの園ランチフェ」の利用者を対象に単発のイベントとして実施した
- 実施日時： 2018-10-20（土） 13：30～14：00（30分程度）
- 参加者： 地域住民、重度心身障がい者施設利用者、障がいのある人障がいのない人など、約80名
- スタッフ： 音楽療法士2名（内1名コーディネーター）
- ボランティア： 2名（内1名は学卒の障がいのある者）
- プログラム： 歌唱、リズム遊び、鑑賞、手話ソング、など
- アンケート結果：「楽しかった」80%、「また参加したい」72%（25名）  
自由表記の中に、「楽しんでいる人を見て楽しかった」とあったのが印象的であった。
- 連携： 民間の団体との繋がりができ、今後の連携のきっかけになった活動であった。
- 所感： 参加型音楽会 MLAP と謳った活動の第1回目であったにもかかわらず、多くの方が笑顔で参加してくださっていて、活動にも積極的に参加してくださっていた。
- 考察と課題： 既に地域に定着しているイベントという環境枠の中での実施だったことから、参加者を募集することなく多くの参加者に MLAP を体験していただくことができた。今後の課題として、「参加者同士が自然に触れ合えるような活動内容を更に増やしていく」、「多様な人々が参加することをふまえて、予備の活動を幾つか準備しておく」、「参加型音楽会といわれてもどんな音楽会なのか想像がつかなかった」という意見もあったことから、今後参加型音楽会の内容がわかるような告知をしなくては必要性を感じた。

#### 2) 医療法人財団つばさ 行橋厚生病院

- 概要： 毎年実施している「第4回健康フェア」の中の1つのプログラムとして参加型音楽会「音楽ひろば」を計画実施し、より対象者に合わせた内容を提供できるように2部構成で実施した
- 実施日時： 2018-11-11（土）10：30～12：30（1時間程度×2回）

参加者： 第1部 地域住民、特に活気がある元気な高齢者 約30名  
第2部 当病院入院患者 約10名

スタッフ： 音楽療法士4名（内1名コーディネーター）

プログラム： 第1部 歌唱、楽器演奏、鑑賞、など  
第2部 歌唱、鑑賞、など

アンケート結果：「楽しかった」77%、「また参加したい」85%（13名）

連携： 連携委員が関わっている医療施設との繋がりができ、今後の他医療施設との連携のきっかけになった活動であった。

所感： 地域に住む高齢者は、歌唱活動を好む傾向があり大変喜んでいただいていたことから、また、入院患者を対象とした活動では、活発にリクエスト曲を発言し、スタッフの演奏するギターに興味を示し練習してみたいという参加者がいたり、活動後の参加者の表情は和やかであった。

考察と課題： 今回のMLAPの様な今後も気軽に集まって音楽活動を楽しめるような環境があることで、地域住民同士のコミュニケーションの一助になるのではないかと感じ、また地域住民と入院患者とをつなぐ学習プログラムにもなりうるという可能性を感じた。今後、新しい医療現場においてMLAPを実施していく上でも、その為の前例として貴重な音楽会だったといえる。

### 3) 社会福祉法人 恵光園

概要： 毎年実施している「第39回福祉の文化祭」のイベントとして実施した

実施日時： 2018-11-23（日） 12:30~13:00（30分程度）

参加者： 地域住民、施設利用者、など 約80名

スタッフ： 音楽療法士5名（内1名コーディネーター）

プログラム： リズム遊び、楽器演奏、手話ソング、歌唱など

アンケート結果：「楽しかった」86%、「また参加したい」86%（14名）

連携： 福祉施設との繋がりができ、今後の他の福祉施設との連携のきっかけになった活動であった。

所感： 最初は戸惑っている様に見えた参加者だったが、知っている曲だと口ずさんだり身体を動かしたりと、より積極的な参加行動がみられた。

考察と課題： イベント会場が広く屋外であったことから、参加者がMLAPの活動に気づくまでに時間がかかったことから、今後屋外で実施する際の環境設定や準備などについての十分な配慮が課題となった。また、今回の経験から、今後屋外でMLAPを実施する場合は、モデリングの活動よりも自由に動く活動の方が、参加者の自発性を誘発しやすいという印象を持った。

#### 4) 福岡市立城南障がい者フレンドホーム内 寿楽園

- 概要： 毎年実施している「ふれあい広場クリスマス会」の中の1つのプログラムとして実施した
- 実施日時： 2018-12-8（土） 14:20～14:40（20分程度）
- 参加者： 地域住民、施設利用者、など 約80名
- スタッフ： 音楽療法士3名（内1名コーディネーター）
- プログラム： 鑑賞、楽器演奏、身体運動など
- アンケート結果：「楽しかった」94%、「また参加したい」94%（18名）
- 連携： 連携委員が関わっている福祉施設との繋がりができて、今後の連携のきっかけになった活動であった
- 所感： トーンチャイムを使用した楽器演奏を実施した際に、予想よりも演奏希望者が多く、積極的に活動に参加する人が多かった。
- 考察と課題： 楽器演奏の活動に、予想よりも演奏希望者が多く、楽器が足りなかった。今後はできる限り、希望者には公平に音楽経験を提供できるように十分な準備が必要だと感じた。また、身体運動で、スタッフは立っているが参加者は座っていたため、参加者の体制に合った身体活動を提供するか、立つように促すなど、活動提供者と参加者が一体となれるような環境設定が今後のMLAP実施における課題になると感じた。

#### 5) 福岡市市民福祉プラザ ふくふくホール

- 概要： 音楽療法士の勉強会である博多音楽療法コミュニティ LINKS の3回目の参加型音楽会「りんりんりんくすⅢ」として実施した。
- 実施日時： 2018-12-22（土） 10:30～11:45（75分程度）
- 参加者： 地域住民 など 約80名
- スタッフ： 音楽療法士5名（内1名コーディネーター）
- ボランティア 一般2名（内1名学卒の障がいのある者）  
福岡大学・西日本短期大学学生 25名  
西日本短期大学和太鼓サークルメンバー 4名
- プログラム： 歌唱、楽器演奏、身体運動、手話ソング、など
- アンケート結果：「楽しかった」86%、「また参加したい」84%（50名）
- 連携： 福岡市内の特別支援学校に案内をすることで繋がりができて、今後の連携のきっかけになった活動であった。また、多くのボランティアとの連携や、地域大学のサークルメンバーとの連携も実現された。

- 所感： ホールの座席を取り払ったことで、会場が広々と解放感に満ちていたことから、参加者ものびのびと活動しているように感じた。また、参加者同士が触れ合う場面を活動の中に多く取り入れたことで、初めて会う人同士をつなげるきっかけになったことから、会場の一体感を十分に感じたイベントであった。
- 考察と課題： 参加者の視点をステージやフロア、またメンバー同士に移動させたり、活動の体系を個人やグループに変化させたり、また、バルーンやパラシュートの利用や活動体系の変化などから、参加者も最後まで集中して活動している様子だった。今後、活動時間やどのような活動の手順や組み合わせが生涯学習プログラムとして効果的であるかの検証が必要だと考えている。また、十分な人数のボランティアがいたことで、音楽を提供するスタッフも安心してプログラムを進行することができたことから、今後のボランティアとの連携が重要だと実感した。

#### 4. 障がい者の家族を対象とした集団音楽体験：

- 概要： 福岡市手をつなぐ育成会保護者会主催の海の中道青少年海の家における「第13回ひまわり療育キャンプ」に参加している児童の保護者を対象にして「保護者のための音楽遊び」を実施した。
- 実施日時： 2018-11-18（日） 9：00～10：00（60分程度）
- 参加者： キャンプに参加している児童の保護者 12名
- スタッフ： 音楽療法士兼コーディネーター 1名
- プログラム： 音楽療法概要説明、楽器演奏、ディスカッション、など
- アンケート結果：「楽しかった」100%、「また参加したい」100%（12名）
- 連携： 保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった活動であった
- 所感： 少々硬い雰囲気が始まり、音楽活動中も笑顔の参加者と硬い雰囲気のままの参加者といたのが印象的だった。しかしながら、長年子どもが体験してきた活動を保護者も体験してみたかったという意見や、参加した後は、また色々な場で体験してみたいという前向きな意見が聞かれた。
- 考察と課題： 参加者の意見より、参加型音楽活動は実施方法の工夫により対象者を選ばない活動であることが立証でき、また保護者の音楽活動への理解も深まった活動であったといえる。今後は、親子でも自然に参加できる音楽活動を計画実施することで、親子のコミュニケーションを促進できる安心できる場としての参加型音楽活動を介した学習プログラムの可能性について探求したい。

5. 音楽活動のための専門家を中心とした勉強会：

- 概要： 音楽療法を教育機関で学んだ経験があり、音楽療法を実践している専門家を中心に実施している勉強会で、名称は博多音楽療法コミュニティ LINKS であり、2007年から実施している。今回のMLAPにおける音楽会を実施する際の中心となる組織である。
- 場所： 福岡市市民福祉プラザ
- 実施回数： 今年度は8回実施した。
- 勉強会概要： MLAP の計画と実施に向けての話し合いやボランティアとの連携について、また MLAP 実施後のフィードバックによる今後の活動に向けての話し合いを実施した。
- メンバー： 音楽療法士 9名

6. 音楽活動のための大学生を中心としたボランティア養成講座：

- 概要： 福岡市手をつなぐ育成会保護者会の依頼により2002年から実施している小学6年生までの障がい児のグループを対象とした音楽遊び BEATON ピートンに参加しているボランティアを対象に実施した。講座の内容は、障がい児・者と音楽活動で関わる際の留意点や TIP について事例から話をし、ここでの音楽を介した障がい児との関わりが将来における地域生活の共生につながっていくという話題を提示した。
- 場所： 福岡市立城南障がい者フレンドホーム 和室
- 実施回数： 今年度は5回実施した。
- 参加者： 音楽遊び BEATON ピートンに参加しているボランティア（非固定）
- スタッフ： 音楽療法士兼コーディネーター 1名
- アンケート結果：「今回のボランティア講座は、次回ボランティアをするときに役に立つと思いますか」97%、「今回のボランティア講座は、ボランティアを以外の日常生活において役に立つと思いますか」88%（のべ32名）
- 連携： 地域の大学生個人や大学のサークルのメンバーとの連携のきっかけになっている。
- 所感： 実際にボランティア活動をした直後に実施することから、より実践に即した内容として実感できてるのか、講座にも集中して参加してくださっていて、学生からの意見も積極的である。
- 考察と課題： このボランティア講座を経験したボランティアが、MLAP の活動にもボランティアで参加してくれることが少なくないことがわかった。MLAP は参加し

て楽しいとのことで、またボランティアとして参加したいとの声が多く聞かれた。この意見からも、参加型音楽活動が参加者を選ばない活動であるという事が伺えるわけだが、充実した生涯学習プログラムを構築するためにも、ボランティアとの連携は欠かせないとする。ボランティアメンバーと顔がわかる関係になることで参加者も開催側も安心して任せられることから、ボランティアとのつながりを深めていくことができるこのボランティア養成講座は、今後も引き続き実施していきたい。

#### 7. 全ての地域住民を対象としたワークショップ：

概要： ドラムサークル講師指導の下、地域住民対象に「ドラムや和太鼓を打ち叩く気持ち良さを味わいませんか？音を身体で感じてたのしもう！」をキャッチフレーズに打楽器を使用した参加型の音楽ワークショップを実施した。

実施日時： 2019-1-26（土） 11：00～12：00

場所： 西日本短期大学 福浜キャンパス 体育館

参加者： 地域住民 など 約50名

講師： 三原典子氏 DCFA 理事・ドラムサークルファシリテーター

スタッフ： 音楽療法士2名（内1名コーディネーター）

ボランティア：ドラムサークルファシリテーター 2名

西日本短期大学和太鼓サークルメンバー 3名

西日本短期大学学生 10名

アンケート結果：「楽しかった」77%、「また参加したい」67%（30名）

連携： 地域の大学との連携によって会場の提供やイベントの案内などが円滑に行われた。また、このイベントでは福岡市及び福岡市教育委員会が後援してくれて西日本新聞の記事になったことから、地域公民館特別支援学校、障がい児通園施設に案内する際も安心して案内することができた。

所感： 老若男女、障がいのある人とない人、日本人と外国人などの参加者がいて、「誰でも参加できる」という言葉にふさわしい音楽イベントであった。

考察と課題： 太鼓を鳴らす、というシンプルな活動であることから、参加者の多くが笑顔でリラックスした雰囲気に参加して下さっていたようである。今後のMLAPのプログラムにおいても適宜取り込んで実施していきたい活動であるが、楽器の準備などで人手が必要となる活動なので、今後の実施の際にも多くのボランティアが必要となることが課題である。



8. 全ての地域住民を対象としたシンポジウム：

MLAP学習会—シンポジウム—

「学卒後の障がいのある人の暮らしと地域とのかかわり～音楽活動のある暮らし～」

日時： 2018-12-5（水） 18：30～20：30

場所： 福岡市市民福祉プラザ 201室

参加者： 学卒後の障がいのある人の暮らしを豊かにしたいと思う人 約20名

シンポジスト： 水野英尚氏 連携協議会委員・地域生活ケアセンター小さなたね所長

白川弘子氏 福岡市特別支援学校博多高等学園教員

古長美知子氏 共同生活援助事業所管理者

司会：下山いわ子

コーディネーター：米倉裕子

概要： 3人のパネリストのお話から、障がいのある人の学卒後の暮らしや地域とのかかわりの現状を知り、そして課題を浮かび上がらせ、更にその課題に対して MLAP の音楽活動が有効であるか、もしくはさらに有効にするための取り組み方を協議した。水野氏からは、医療ニーズが高い学卒の障がいのある人の生活においては、地域の人々のサポートなくては成り立たない事から、地域の人々をつなげていく可能性のある参加型音楽会には大いに期待をしていること、白川氏は、特別支援学校の高等部で音楽を指導していた経験から、音楽の授業で起こった生徒の事例から、障がいをもつ人にとっての参加型音楽会のこれからの可能性について、また古長氏からは、以前関わっていた音楽を生業とする障がいをもつ人のグループ活動の現状と、現在関わっている障がいをもつ人を対象とした施設利用者の生活範囲がいかに限られているかについて話題を提供してもらい、それぞれの活動に参加型音楽会がどのように関わっていけるかについて、短い時間ではあったものの MLAP のコーディネーターとしての提案をさせていただいた。

考察と課題： シンポジウムの内容が、学卒の障がい者の現状を知る上で内容の濃いものであったにも関わらず、実施が決定してから開催されるまでの期間が短かったことから、案内をする人が限られてしまい、会場に集まった人数が少なかったという現状を踏まえて、今後は十分な準備期間を想定して実施したい。また、シンポジウムの進行においても十分に準備をして臨みたい。

## 9. 視察：

### 1). 第18回日本音楽療法学会学術大会

- 概要： 2千人を超える音楽療法士による組織であり、年に1度学術大会を実施している。今回第18回目のテーマは、「個が奏でるハーモニー—対象者を見つける音楽療法士の姿勢—」であった。
- 日程： 2018-9-14(土)～2018-9-15(日)
- 場所： サポートホール高松(香川県)
- 視察者： 音楽療法士による勉強会LINKSに所属している音楽療法士 1名  
コーディネーター：米倉裕子 (計2名)
- 成果： 学会で発表された地域活性化目的の地域主催イベントで地域の方を巻き込んだ音楽会の実践報告より、このようなイベントで音楽療法士に必要となるスキルは、雰囲気作り、幅広い年齢層の人が楽しめるように楽器選定スキル、演奏スキルなど様々なスキルが必要であること、また、地域と繋がるために必要となる手段のひとつとして、参加型音楽会 MLAP をファシリテーターとする MLAPER がまず地域のイベントに積極的に参加し MLAP の存在を知ってもらい、そこからの広がりが重要であると学んだ。将来、MLAPERとして活動をしてくれそうな音楽療法士の発掘目的で、興味がありそうな音楽療法士に対して MLAP の啓発を実施した。

### 2). 大友良英と音遊びの会

- 概要： 知的な障がいをもつメンバーを含むアーティスト集団「音遊びの会」のステージパフォーマンスで、この回は、「あまちゃん」や「いだてん」の音楽を担当している大友良英をメンバーとして含んだパフォーマンスを開催した。
- 日程： 2018-10-21(日)
- 場所： 神戸アートビレッジセンター(兵庫県)
- 視察者： 音楽療法士による勉強会LINKSに所属している音楽療法士 1名  
コーディネーター：米倉裕子 (計2名)
- 成果： いわゆる「音楽」という概念からはもしかすると逸脱しているとも思える「即興演奏」という枠組みで捉えた障がい者の芸術性と演奏形態の存在の確認をした。その場のなんでもありの音楽形態は、パフォーマンスの仕方、プレゼンテーションの仕方観る人に与える印象を変えることが可能で、それは地域住民との音楽によるコラボレーションの可能性が示唆されたように感じた。また、会場の「神戸アートセンター」の地域住民の芸術の「場」として地域

に溶け込むように存在していたことから、このような施設が福岡市にも必要ではないかと強く感じた。

### 3). その場ですぐみんなで生き生き合奏

- 概要： 現場音楽研究会 & 合奏システム研究所の折山もと子氏を講師として招いた、キーボード、打楽器、トーンチャイムを使用した即興演奏の指導法についてのワークショップを受講した。
- 日程： 2018-11-4 (日)
- 場所： 光風会病院 森のシアター (佐賀県)
- 視察者： 音楽療法士による勉強会 LINKS に所属している音楽療法士 1名  
コーディネーター：米倉裕子 (計2名)
- 成果： 音楽活動で使用頻度の高い楽器を使用して、インスタントにできるが審美性の高い音楽を追求するワークショップであった。こちらの準備により、楽譜が読めなくても、初めて楽器に触った人でもすぐに参加できる合奏の方法は、MLAP に応用できるものであった。

### 4). 第4回ドラムサークル for ウェルネス「高齢者の健康におけるドラミングの影響について」

- 概要： アメリカで幅広い対象に対してドラムサークルを実施しているフランク・トンプソンから、あらゆる現場でそれぞれの対象者のニーズに沿ったドラミングの提供の仕方とかかわり方の極意についての2日間のワークショップで、清水先生からは日本の現場での実践の話があった。
- 日程： 2018-11-24 (土) ~ 2018-11-25 (日)
- 場所： (株)ヤマハミュージックジャパン 地下1階 (東京都)
- 視察者： 音楽療法士による勉強会 LINKS に所属している音楽療法士 1名  
コーディネーター：米倉裕子 (計2名)
- 成果： 人間にとってもっとも原始的な「太鼓を手で叩く」という行為をコミュニティ創造にとりいれているドラムサークル活動の基礎概念と、この回は得に高齢者を対象にしたドラムサークルの実践報告も交えて学んだ。また、MLAP で開催予定のワークショップに講師として来ていただく予定の先生にもお会いして打ち合わせをした。

5) 日本臨床音楽療法学会第 13回大会

- 概要： 4名の音楽療法士による事例発表と「即興アプローチの具体的な練習方法」についてのワークショップという内容であった。
- 日時： 2018-2-17 (日)
- 場所： 神戸大学鶴甲キャンパス C111 教室 (兵庫県)
- 講師： 岡崎香奈氏
- 視察者： MLAP 連携協議会委員 1名  
コーディネーター：米倉裕子 (計2名)
- 成果： 創造的音楽療法の概念をベースにした音楽療法の環境は、他者を警戒せずに様々な周囲の人(大人・子ども・障がい者・高齢者・外国人など)と安心してすごせるようになり、またそのことによって、対象者がより自分自身にコンシャスになって自尊心が向上し、自分の行動(発声や感情など)をコントロールできるようになるという事例から MLAP の創造する音楽環境についてのモデルのひとつとして学ことができた。

# MLAP 活動の様子

地域の中で 10月20日 こひつじ園のランチカフェ  
バプテスト教会にて、



壇上に上がって、ずっと笑顔で身体を揺らしながらの参加。  
「こんなに楽しそうなのは初めて」と保護者



外面からはわかりにくですが、実は  
身体の中から、感じています。

地域の中で 12月22日 「りんりんりんくすⅢ」

ふくふくプラザ ホールにて。だれでも、どんな参加の仕方でも OK の実践



参加者がファシリテーターに。障がいのある人もない人もなりきりました。恥ずかしい、楽しい、誇らしい表情、でした。



思いっきり身体を動かしての参加も  
休憩しながらの参加も  
その場にいるだけでも、どんな参加も OK !



地域の中で 1月26日 「リズムでコミュニケーション〜ドラムサークル〜」  
西日本短期大学体育館にて。 緊張した表情場が、どんどん笑顔に。  
障がい児が膝に乗ってきても、一緒に楽しんでいました。  
落ち着いた障がい児が、だんだんと自分から輪に入っていました。



連携協議会委員で体験。道具を使わない体験もおこないました。  
委員のまじめな顔が、笑い声でいっぱいになりました。

